

平成 26 年 11 月 10 日

ISAF・ORC 2014 年 年次総会 報告

J S A F 国際委員会
オフショア担当
小 林 昇

2014 年の年次総会は、ISAF が 11 月 1 日から 8 日、ORC は 1 日から 5 日まで共にスペインのマヨルカ島パルマで開催された。私は 2 日深夜の到着から 7 日早朝の出発まで滞在し、ISAF の外洋関係委員会の出席・傍聴と、ORC の 2 つのミーティングに出席した。JSAF からは外洋系として植松 眞副会長・国際委員会の鈴木一行氏と私、計測委員会から角晴彦の 4 名が出席し、国際委員会から大谷たかお氏と柴沼克巳氏、ルール委員会の田中正昭各氏に加えてオリンピック対応として入部 透氏と斎藤愛子さん、英国に滞在中の穂坂氏が出席して例年のない 10 名のデリゲートとなった。ORCAN からは出席がなかった。

3 日 ISAF 及び ORC に参加登録後、挨拶まわり。

外洋系の 4 名と事前打ち合わせの上で、午後に ORC のフィンチ会長とマネージメントの 3 名と共に、情報交換を行い将来の ORC との関係に付いて会合を持った。

* 本件の報告は鈴木一行委員から提出予定。

夜は ORC ディナーに植松副会長、鈴木一行氏と共に出席。

4 日 <スペシャルレギュレーションサブコミッティー> を傍聴。

夜は <クロックス ISAF ワールドセーラーアワード 2014 > に出席。

5 日 ORC のコンGRES として EGM (午前) と AGM (午後) に出席。

6 日 <オセアニックアンドオフショアコミッティー> に委員として出席。

7 日 早朝、大阪に向けて出発、8 日午前中に帰日。

マヨルカ島のパルマはバルセロナの沖に位置する地中海の著名なリゾートの一つで、市街地の前に大きなヨットハーバーが広がり、大小の艇がひしめくように係留されている。ヨットと言うにふさわしい 100 フィートを越える艇もかなりの隻数が集まり、華やかな地中海のヨットینگパラダイスである。

<スペシャルレギュレーションサブコミッティー> -傍聴

昨年に委員長に就任したカナダのウイリアボット氏は、自身のカラーを強く出したリーダーシップで多くのワーキングパーティーを統率して効率よく作業を進めている。

今年のサブミッションの項目は、

- 1) マストヘッドアンテナ長さ和使用同軸ケーブルの減衰率規定
- 2) AIS アンテナをマストトップの VHF アンテナと共用する場合の規定と、単独設置する場合の規定
- 3) レーダー反射板の仕様
- 4) 艇用の EPIRB は 2016 年 1 月以降に登録する場合は GPS 内蔵タイプとする事
- 5) サバイバルトレーニング受講証書の有効期間に付いて
- 6) ライフラフトの規定 (シンプルな表示になった)
- 7) ライフラフトの必要点検時期
- 8) ライフラインの最小直径と材質 (ダイニーマ使用の可否を再審議)
- 9) モノハル艇のスタビリティー基準

が、討議され字句や内容の修正を受けた項目も含めて全て可決されて、オセアニックオフショア委員会に報告された。

ワーキングパーティーの報告では、

- 1) コクピット容積と排水：口頭で報告がありその内容は2015年のサブミッションとして提出される。
- 2) 落水者の艇への復帰：2013年報告のアップデート内容が報告され、付則D、-落水-緊急停止とライフリングを改訂し、外洋での個人の安全ガイドにも反映させる事になった。
- 3) ライフラフト：上記サブミッション2項が提出された。
- 4) 遭難信号と位置発信：電子信号発信器の進歩と普及により従来の火薬式遭難信号の必要数を減らすサブミッションを来年提出する事となった。
- 5) ライフジャケット・ハーネスとセフティーラインの見直し：最近のISO基準での外洋用のライフジャケットの開発が進んでいるので2015年に新基準のサブミッションを提出する事になった。
- 6) O S Rの改訂 (Rewrite) に付いて：進行中のサンプルが提示された。
- 7) 電動推進：安全性についての報告があった。
- 8) ショートハンドレース：近年増加傾向にあるダブルハンドレースに特別なレースカテゴリー設定の必要性は無いであろう、との報告があった。
- 9) ライフラインの材質：ダイニーマに付いて使用を止めるべき、との報告があったがこれは否決され継続して調査をする事になった。
- 10) カテゴリー4と5の見直し：

日進月歩の新材料とそれを使った艇体やリグの変化、安全装備品やデジタル機器類の開発はSRで扱われる艇の設備や個人装備に大きな変化をもたらし、ISO基準を取り入れるケースが増えている。これらの評価と採用の可否に付いての作業が増加している。また、近年にラダーやキールの折損や復元力に問題のある艇の事故や落水時の対策、ダイニーマ製ライフラインの見直しなども変化への対応となっているのであろう。

次回SR改訂に向けての方針と作業時間表が委員長から提出され、2016年1月には新たなバージョンが発行され、コンピューターやスマートフォンでの閲覧で判りやすい内容をめざしている。

＜オセアニック・オフショアコミッティー＞ -委員として参加

2つの外洋系サブコミッティーを含み、オフショア事項を全般的に統括する機関で、特にスペシャルレギュレーションサブコミッティーの討議内容はカOUNシルに上げずに最終決定をする重要な委員会である。

討議された主要な内容は以下の通り。

ワーキングパーティーの報告

＜ユニバーサルメジャメントシステムの進展＞

UMS (Universal Measurement System) への取り組みはORCとRORC (英国) にUSセーリングが2012年に加わり、＜この3者で、統一のメジャメント申告フォームを作り、どのレーティングの取得を希望するオーナーでもこの3者による共通フォームに記入する事で申告を可能にする。各レーティング事務所はこの申告書のデーターをデジタルで共有し、これに基づいて各レーティング証書を発行する＞という方針で進んでいる。ORCとUSセーリングは共通のVPPをベースにしたレーティングシステムを運用している事もあり、上記のデーターベースの共有も容易で、その共同作業は進んでいるようだ。これに対してIRCを運用しているRORCはこれにあまり協調している様子は無く、独自の路線を維持している事が明確になって来た。共通のデーターベース構築には艇の計測に関するパラメーターの定義付けが必要で、これにはエンピリカルハンディーキャップサブコミッティーとERSを管理しているエクイップメントコミッティーも関与して作業が進められている。今後の進展には目を離せない状況が続いている。

<構造信頼性-Structural Integrity>

近年多発しているキールやラダーの脱落事故に付いて、それらの事故から学ぶべき情報の共有がセーリングの世界には欠落している。ISAFでそれらの原因となった構造上の問題点の情報を集める必要があるという事で昨年度にワーキングパーティーの設置が承認された。情報の取り扱いには保険や、合法性等の観点から難しい点もあるが、スタンハニー氏をリーダーとして進められている。

レーティングシステムからの報告

<IRCからの状況報告5123>

RORCからIRCの状況報告があった。証書発行数の推移は2013年8月末では5,123で、これと比較して本年同期は5,129とほぼ同数の状況であった。減少傾向は本年末の集計で止まるのが注目点。日本では昨年度末の313に対して8月末で293と迫っているが前年同期の303に対しては減少している。昨年末では世界で7番目の国であったが、本年は6位ぐらいになりそうである。

ただ、IRCはファーストネット（英）・シドニーホバート（豪）・バミューダ（米）・ミドルシー（地中海）と言った世界各地のクラシックレースで採用され続けている

* ORCの状況はORC कांग्रेस報告の項で記載。

<OSRサブコミティーからのサブミッション討議>

OSRサブコミティーでのサブミッションの報告は全て承認された。

<オセアニックコンコーダ>

ISAFは2010年以降、オセアニックレース（長距離外洋レース）を広く統括する動きを進めてきているが、著名なロングオフショアレースの主催者との合意書が<ISAFオセアニックコンコーダ>として2010年に合意され、本面も引き続き情報交換とスケジュール調整の定期会合が9月にパリで持たれ、その報告が委員長から行われた。

<オセアニック・オフショアレースのジャッジガイド>

デビッドブランスキル氏が上記ガイドのワーキングパーティー委員長をつとめ、昨年そのガイドが提出されたが、本年はその改訂版が提出された。

<エンピリカルハンディキャップサブコミティー>

ケンカーショウを委員会として総数3名の委員が4年任期で昨年度に指名されて再出発した。委員会は開催されず委員長も健康を理由に出席がなかったが、標準パラメーターの設定を、UMSとERSのメンバーと共同して行っている内容の報告書が提出された。

*オセアニック&オフショア委員長が、ジャックリー（仏）から従来副委員長を勤めていたスタンハニー氏にバトンタッチされた。

<ORC कांग्रेस> - कांग्रेसとして植松副会長と共に参加

ISAFと並行して、ORCの各委員会も開催される。ORCの各委員会の報告を受けて、5日朝から各国の कांग्रेसだけのミーティングがあり（EGM）、その後オープンなAGM（年次ゼネラルミーティング）が開催された。

ORCの2014年の証書発行状況（ORC i と club の合計数）

主要な国は依然として堅調なイタリアとドイツ、ギリシャ、オランダで、これに昨年からORCを基本レーティングに戻したスペインと、ORCクラブを採用したノルウェイが大きく寄与して2012年の7,009から8,219へと増大していたが、2014年にも伸長して8月末で既に9,132と10%強の伸び率を示している。

日本では2013年にORCクラブで130であったが本年は8月末の120で、これは昨年に引き続いてレビの支払いが免除され、過去の取得艇にはORCANから無償で証書が発行された結果である。このプロモーションは今年で終了する。ORC International は昨年の4から14に延びている、これは関西ヨットクラブの試みが成された結果であるが、2015年には継続しないようだ。日本でのORCのレースがほとんど開催されていない事実と、ORCクラブも2015年には大幅に減少するであろう事を考えると日本でのORCの実態はますます無くなっていくだろう。

- ・ 証書発行数の伸長以外でも、キールで2014年8月に開催されたORC世界選手権には19カ国から150隻が参加するという盛大さであった。
- ・ ORC世界選手権等でも、GPHに依る大きなレーティング巾を持つクラス分けは風の変化が大きなレース状況では問題があり、CDL (Class Division Length) というクラス分けが適切に可能なファクターが開発され、来年から採用される事となった。
- ・ PCSでのスコアリングシステムに改良が加えられた。また、ORCが進めるウェブサイト利用のサービスにオンラインのスコアリングを可能とするソフトウェアの開発を急ぐ方針が出された。
- ・ 役員の改選があり、フィンチ会長、シニョリ計測委員長、ビビアン秘書が以後2年任期で再任された。

その他：

- ・ <ロレックスワールドセーラーアワード2014>は、男子では日本でもテレビ放映があり話題を呼んだアメリカズカップの米国艇で艇長とヘルムスマンを勤めたJames Spithillが選ばれ、女子ではブラジルの49er FXで世界を席卷したMartine Grael & Kahena Kunzeのペアが選ばれた。

添付：1、スペシャルレギュレーションサブコミッティーの決定議事録（暫定/英文）

*オセアニック&オフショアコミッティーはこれを承認した。最終は同コミッティーの議事録発行で確認下さい。

- 2、オセアニック・オフショアレースのジャッジガイド改訂版2014（英文）
- 3、ORCの報告書（英文）
- 4、IRCの報告書（英文）

以 上